

事例の区分

事業区分	農業・農村整備（ほ場、用排水路等）事業
配慮概要	オオヒシクイ（国の天然記念物）越冬地確保のためのルート変更とビオトープの整備

事業の概要

事業名	県営ほ場整備事業 粟津川地区（広域営農団地農道整備事業 三崎地区）
実施場所	珠洲市三崎町森越地内
事業主体	石川県（担当課：農業基盤整備課）
実施期間	平成9年度～平成17年度予定
全体事業費	1,483,000千円
事業規模等	区画整理工面積：64.6ha、暗渠排水工面積：64.6ha、生態系保全施設：1式
事業概要	ほ場整備地区内において調整池、排水路を整備した。その際、地区内のオオヒシクイ越冬地保全のため、広域農道のルート変更したほか、ほ場整備では、地域住民参加のもとビオトープを創設するなど環境の配慮を行った。

環境配慮の内容

- ・国の天然記念物オオヒシクイなどの大群が越冬する珠洲市粟津川地区で平成9年度からほ場整備事業が着工された。さらにほ場の中心を貫通する形で広域農道が建設される計画となっていた。
- ・この計画を進めた場合、希少なガン類の越冬地が消失することが懸念されたため、環境保護のため、関係機関や地域住民との協議を重ね、下記の対策を行った。
 - 1) 鳥類の繁殖・越冬に影響を与えない工期・工法の調整
 - 2) 越冬地を回避するため広域農道の路線を変更
 - 3) ほ場整備区域の一部を野鳥の保護及び観察の場とするためビオトープとして造成
- ・ビオトープの造成は、地元小学校の生徒と地元住民が作業を実施した。地元小学校では、ビオトープを活用し野鳥の生態学習が実施されている。

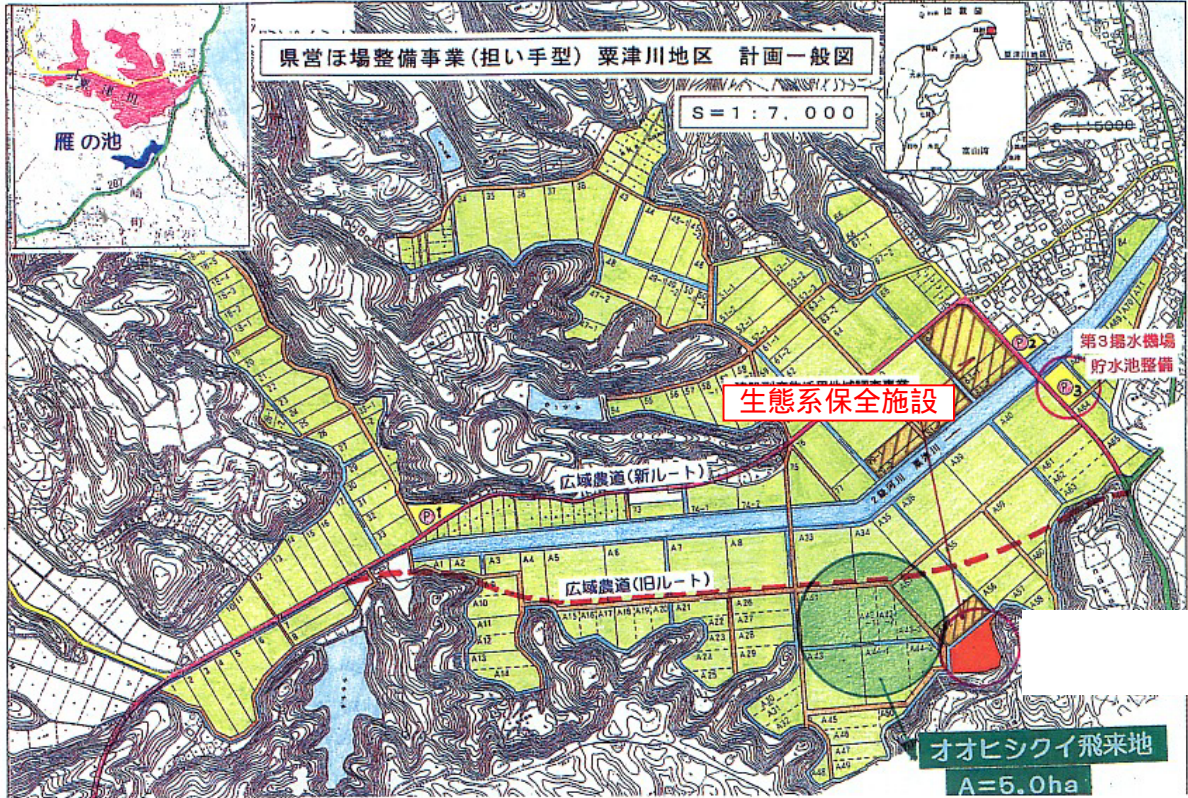
環境配慮の結果

- ・能登半島屈指のオオヒシクイの渡来地として安定している。
- ・環境省が日本の重要湿地500箇所に選定した。

今後の留意事項等

- ・事業推進と生態系の保全を両立させた模範的事例となった。

県営ほ場整備事業（担い手型）粟津川地区 計画一般図



生態系保全施設の概要

